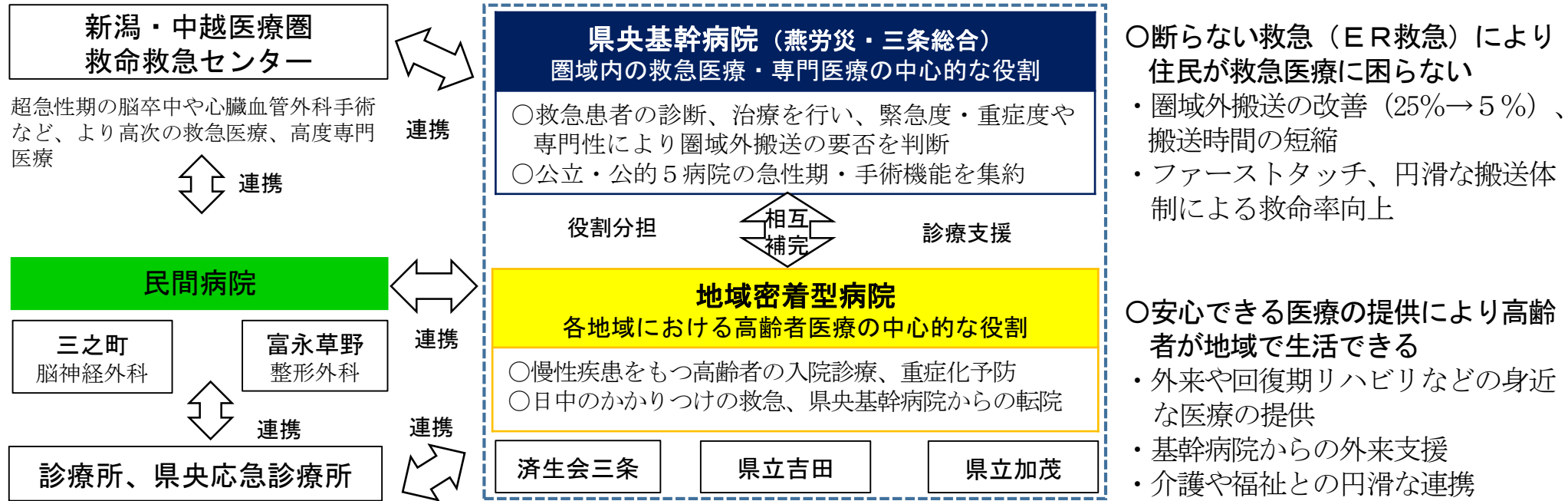


プレER救急体制の確保に向けた取組について

県央地域の患者さんは県央地域で診る

県央基幹病院だけでなく地域全体で協働して
住民が救急医療に困らない、高齢者が地域で生活できる医療体制を目指します



「3つの実施項目」と「県央地域の患者を診るスタッフ確保」で実現

1 プレER救急体制

- ・断らない救急体制の段階的拡充
- ・みんなで成長する教育研修体制構築

2 基幹病院のハード整備

- ①救急を重視したハード整備
- ②ICT活用の医療システム導入
- ③感染症対策に工夫した設計

3 地域密着型病院の機能転換

- ①高齢者の入院需要に対応した機能転換、地域に必要な外来機能確保
- ②加茂・吉田病院は機能転換に合う民間ノウハウを活かした運営を検討

重症～軽症の様々な症例が集まり、介護・福祉との連携があるなど、地域医療の現場経験が積める充実したキャリアパス環境がある、さらに医療再編、ER救急病院立ち上げを一員として経験できることに、魅力を感じ共感するスタッフを確保する

プレER救急体制（燕労災病院）

現在の取組

今後の展開

断らない救急体制の段階的拡充

救急・総合診療医等の確保

- ・体制構築の中心となる医師を確保
救急（新田先生・渡邊先生）、総合診療（小泉先生）、外傷再建（伊藤先生）

救急医療提供体制の整備

- ・先進施設への訪問・意見交換
- ・燕労災病院の救急患者受入拡大に向けた体制見直しに着手

地域との連携構築

- ・救急隊との意見交換を開催、顔の見える信頼関係構築に着手
- ・地域の病院との協力体制づくりに着手

医療スタッフのスキル向上

- ・救急・総合診療医との定期的研修会の開催

基幹型臨床研修病院

- ・医学生の見学・外来実習受入
- ・臨床研修内容のブラッシュアップ

総合診療の実践の場

- ・総合的な診療能力を持つ医師の育成に向けた大学からの臨床実習受入

医師のキャリア形成

- ・オンライン海外留学支援制度の創設

- ・発信ツールを活用し、ER救急立ち上げの魅力を伝え、さらなる仲間を確保していく

- ・救急外来機能向上とHCUや救急病床整備を段階的に進め、救急患者受入を拡大していく
- ・ICTを活用した院内外コンサルト体制の導入を進めていく
- ・救急救命士等の新たな職種を確保していく

- ・救急搬送ルール見直しや連携を強化していく
- ・地域の病院と合同カンファレンスを実施していく

- ・症例カンファレンスを開催していく
- ・新潟市民病院等、救命救急センターに職員を研修派遣、さらなるスキルを向上させていく

- ・協力型臨床研修病院として、研修医を受け入れていく
- ※基幹病院開院時からの指定を目指す

- ・地域をフィールドとして、地域の病院と連携し実習受入を拡大していく
- ・研修医やキャリアチェンジ医師のプログラムにつなげていく

- ・新病院立ち上げに携わる医師、医療再編を経験しながらキャリア形成を目指す研修医を育成していく

みんなで成長する教育研修体制構築

県央基幹病院のハード整備

1 救急を重視したハード整備

<設計>

- 救急外来は多くの救急搬送患者を受け入れるため、災害医療における優先度（C S C A）の思想のもと、視認性のよさ・機動性の高さが得られる設計

- 指揮統制
- Command&Control 指揮所
 - Safety 感染予防
 - Communication スタッフ同士の意思伝達
 - Assessment 診療体制、診療進展度の評価

- 救急搬送患者が迅速に検査を受けられる放射線機器の配置

<機器整備>

- 救急医療・急性期医療の中心となる病院として必要でパフォーマンスが高く、患者の身体に負担の少ない治療を可能とする機器を整備
- 地域密着型病院との共同利用

2 ICT活用の医療システム導入

- 情報収集を素早く、時間・場所に縛られない環境を整備
 - ・救急医や上級医によるコンサルト
 - ・多職種コミュニケーション
 - ・救命救急センターからのモニタリングによる診療支援
 - ・地域密着型病院との合同カンファレンス
 - ・職員の働き方改革への対応
- 患者の利便性向上

3 感染症対策に工夫した設計

- 感染症対応のため陰圧仕様の個室や多床室を設置
- 感染症拡大時には7階A病棟を感染病棟として、レッドゾーン（感染者支援エリア）、イエローゾーン、グリーンゾーン（通常支援エリア）にゾーニング
- そのほか、1階に発熱外来スペースを確保

